



尾張中央ロータリークラブ Weekly Report 2016-2017



人類に
奉仕する
ロータリー

(2016-2017年度国際ロータリーのテーマ)

会長：中村隆文 承認日：1984年1月30日 事務局：〒481-0004
幹事：松尾晋吉 例会日：毎週水曜日 北名古屋市鹿田坂巻5-1 TEL:0568(25)4701 FAX:0568(25)4702
会報委員長：今村康宏 例会場：名鉄グランドホテル・CBC自動車学校

URL <http://owarichuo-rc.jpn.org/>

E-mail kita2a-owarichuo-rc@rhythm.ocn.ne.jp

水と衛生月間

2017年3月8日 第1574回 職場例会
済衆館病院

司 会 会場委員会委員長 池山 悟

点 鐘 会 長 中村隆文

唱 和 ソングリーダー 太田吉宣

それこそロータリー

会 長 挨拶 会 長 中村隆文



本日は職場例会として、済衆館病院をご利用させていただきありがとうございます。

また、理事長さんでもある今村君ならびに病院関係者のみな様にはこのような準備から貴重な時間での受け入れに対しまして感謝申し上げます。

さて、本日は医療機関である病院における職場例会として、私は初めての経験ですから大変興味深くまた期待していました。これも私が13年前に国立名古屋医療センターでの1ヶ月におよぶ入院の経緯から、入院患者さんへの心温まる対応や治療などが病気からの回復を早めていただいた経験があり、医療に携わられる方々には敬意を感じておりました。

また昨今では高齢化社会における新たな医療から介護において広範囲にわたり地域における重要な役割を担っておられること、そして住民にとっても重要な施設である地域総合病院としての機能を維持することは大変なことではないかと感じます。

本日のお知らせ (3月15日)

親睦夜間例会 (18:30 ~)

会場/名鉄グランドホテル

担当/親睦委員会

(1575回)

次回のお知らせ (3月22日)

P E T S 報告

会場/CBC自動車学校

担当/会長エレクト、次期幹事

(1576回)

病院経営など詳細につきましては今村君より説明いただけますので、私からはロータリーと医療について少しお話をさせていただきます。

国際赤十字社の創業者であるジャン・アンリ・デュナンについてロータリーの卓話にはよく取り上げられています。

デュナンが生まれたのは1828年5月8日(スイス・ジュネーブ生まれ)であり、彼の誕生日が「世界赤十字デー」となっています。父親は政治・経済会の名士で、共和国代議員や福祉孤児院の所長を務め、母親は名門家の出身で、福祉活動に熱心だったようで、この影響からかデュナン自身も慈善団体のメンバーとして働き、キリスト教活動にも尽力、西ヨーロッパ諸国の若い福音活動家たちと交流を図るうち、ロンドンにおいて創設された「YMCA」をジュネーブ創設に尽力し、その後1855年、デュナンによってパリでの「YMCA世界同盟」結成に至ったようです。

そしてアルジェリアの貧困地域支援事業においてナポレオン3世に支援を求めに行くが、フランスの領土拡大戦争のさなか多くの戦場に放置された死傷者の姿を見て、その救援活動をしている地元の女性たちの群れに入り、自らも救援活動に参加し「人類はみな兄弟」と答えた言葉が有名になっています。

1862年、その体験を書いた「ソルフェリーノの思い出」を出版、戦場において敵味方の区別なく負傷者の救護に当たることを目的とする「赤十字」の創設契機となったそうです。しかし、1865年理事を務めていたジュネーブ信託銀行の倒産によりアルジェリアでの事業が決定的な打撃を受け、株主からの訴訟により1867年には裁判所からの破産宣告も受け約20年もの間消息を絶ったそうです。その後、赤十字の活動範囲は戦争捕虜に対する人道的支援、一般的な災害被

災者に対する救援へと拡大していったが、彼自身はこの活動から身を引き、世間からも忘れられていったようです。

1895年に東スイスの新聞「オスト・ジュヴァイツ」紙によってデュナンの功績が再び脚光を浴び、ルドルフ・ミュラー教授がノーベル平和賞の選考委員に推薦、1901年第1回ノーベル平和賞の受賞につながったとのこと。

デュナンの「自己犠牲」「奉仕の精神」はロータリーの神髄ではないでしょうか。

以上にて、本日の会長挨拶とさせていただきます。

出席報告

委員長 松岡幸彦

第1574回

会員数：31名 出席数：27名 出席率：9.4%

前々回第1572回 修正出席率：92.9%



今村君の講演内容は
HPにてご覧いただけます。